

琉球リースだより

新風

【mi-kaji】
みーかじ

第7号

簡単解説

“パツパツ”と分かるリースの話

温故知新

小国・琉球の外交術

本土ビジネス客おもてなし講座

うちなーびけーん

いろんなところでリース



琉球ゴールデンキングス



今年も、琉球ゴールデンキングスがシーズン終了の報告に、当社を訪れました。



澤岷安史 選手

社長

まずは準優勝
おめでとう！
でも惜しかったですねえ。

桶谷

はい。手応えを感じましたので、
来シーズンは大いに期待して
ください。

社長

シーズン中はいろいろあった
と思うが、ここまで勝てた理由は？

澤岷

応援団の大声援と指笛が
力になりました。
沖縄のファンに感謝です。



桶谷大 ヘッドコーチ

琉球リース社長 比嘉朝松

社長

志村選手、初めての沖縄は
どうでしたか？
(*志村選手については下記参照)

志村

当初、食事が口に合うか心配し
ましたが、どれも美味しくて良
かったです。
それと、初めて台風を体感させ
てもらいました。これほど凄い
ものとは…、正直怖かった～。

社長

それはいい経験が
できましたね。(笑)
来シーズンは仙台での
活躍を期待してますよ。

志村

はい、
ありがとうございます。
沖縄パワーで
頑張ります。(笑)



志村雄彦 選手(仙台89ERS I行イケーズ 所属)

東日本大震災により、仙台のチームが活動休止となったが、bjリーグは選手のレンタル移籍という支援策を打ち出し、メンバーはシーズン終了まで日本各地のチームに配属された。この時、移籍選手はどのチームでも「仙台89ERS」のチーム名を表した背番号「89」に統一され、その活躍ぶりにもスポットがあてられた。琉球ゴールデンキングスでは身長160cmの志村選手が「89」番で大活躍し、プレーオフにも貢献した。



リース

いろんなところで
第7回

リースの対象物件といえば、小さなものはOA機器・パソコンから、大きなものは船舶・航空機に至るまで、広い分野にわたって、お客様のニーズに応えています。

そこで、このコーナーでは、当社が選定したリース物件にスポットを当てて紹介します。



救命活動に日々奔走する “救急車”

夏、太陽がジリジリと・・・、熱中症が心配な季節です。万一のとき、救急搬送に活躍するのが救急車です。

救急車といえば119番通報で消防署から出動、これが一般的なイメージですが、当局の許可があれば民間でも救急車を保有できます。

代表的なところでは病院や大きな工場などですが、何とあの東京デイズセンターでも救急車を保有しているそうです。

県内のある民間病院、ここの救急車はリースで導入されました。

普段は患者の搬送に利用されていますが、緊急の場合はサイレンを鳴らし、救急車として活躍します。

東日本大震災では、医療がライフラインとしていかに大切であるかを再認識させられました。

昨年、県内における救急車の出動回数は年間6万件を超え、年々増加の一途を辿っています。

このような状況下、我々の健康を支えてくれている関係者の皆様に感謝です。

うちなーんちゅのための「本土ビジネス客おもてなし講座」パート②

近年、本土企業との取引が活発になるに連れ、沖縄に出張で来られる方が増えています。そこで、このコーナーでは、相手方が「沖縄初心者」の場合どうもてなしたらよいか、「沖縄流のもてなし」をシリーズでご紹介します。さあ、取引先との良好な関係を築くために、守礼の心で、レッツ「めんそーれ」！

「料理編」

近年の沖縄ブームをきっかけにブレイクした「ゴーヤーチャンプルー」は、沖縄料理の代名詞として、一躍メジャーな存在になりました。

(パチパチパチ…)

しかしながら、沖縄料理はこれにとどまらず、お奨めしたいものが山ほどあります。そこで、二回目の今回は「料理編」と題し、おもてなしを盛り上げるための「沖縄料理にまつわるあれこれ」をお届けします。

「島らつきよう、最高ですわね。」

いの一番に出すべき料理は、「島らつきようの塩漬け」である。

まずは、この一品にどう反応するか、様子を見てみよう。

「うまいっ…。」と唸り、箸が進んでいたら、かなりの「のんべえ」と思っただけではない。今夜は帰りが遅くなることを覚悟しよう。

この後は、「ラフテー、ゴーヤーチャンプルー、

ミミガー、海ぶどう、ジーマーミ豆腐」など、数あるメニューの中から相手方の好みに合わせて選んでいけばよいが、この中に相手方が「えーっ。」「へーなるほど。」と反応する料理をぜひ取り入れてほしい。

最初に「えーっ。」と反応する料理をご紹介します。

まずは「ナーベラー(へちま)の味噌煮」である。このとき、何も言わずに食べてもらおう。十中八九「おいしい。」と言うだろう。

この言葉を聞いてから、おもむろにこの野菜の正体を告げたい。中には「…。」となる人もいて、反応は様々である。

尚、間違っても食べる前に、へちまであることを



明かしてはならない。本土では「へちま」たわしのイメージが強く、先入観を持って食べてもらいたくないからだ。「ナーベラーはうまいぞ」。ゴーヤーに続いて、全国制覇だ！

次は「パイイリチー(炒めもの)」である。

これは先にパイイヤであることを明かそう。それでも、おそろおそろ口にする人が多いだろう。

なぜなら、パイイヤといえば、甘くて、柔らかな「トロピカルフルーツ」であり、炒めたときの味が全く想像できないからだ。ところが、食べてみると意外と美味しいため、「あれっ？」という感じだろう。

そこで、これが野菜として食べられている青パイイヤであることを説明しよう。

続いて「へーなるほど。」と反応する料理を紹介したい。

まずは、ソーミン（そうめん）チャンプルーである。

相手方はそうめんを炒めることに関心を持つかもしれないが（全国的に珍しいらしい）、ここは具材として使用されているツナを話題の中心としたい。

そこで、相手方に「沖縄のツナ消費量は全国平均の約5倍で、ダントツの全国一である。」と口火を切ろう。



すると、相手方は興味津々にその理由を尋ねてくるだろう。そのときは、ひとつ咳払いをして、こう言おう。

「沖縄でツナが食べられるようになったのは、米国の影響です。終戦後、沖縄を統治していた米軍によって、多くの缶詰がもたらされました。当時は食糧難ということもあって、沖縄ではこの缶詰を日々の食生活に上手く取り入れていました。中でもツナは沖縄料理との相性が抜群りで、今では沖縄料理になくてはならない存在になっています。」

また、「高齢者はツナのことを英語の発音に近い『トゥーナ』と呼ぶ。」「家にツナの買い置きがなくなると不安になる。」とのエピソードを付け足すと、さらに沖縄におけるツナの重要性がわかってもらえるだろう。

ツナに沖縄の戦後復興の歴史あり、ソーミンチャンプルーの味がより深みを増すだろう。

次は、クープ（昆布）イリチーである。

ここは当然昆布の話題であり、まずはこう切り出したい。

「昆布は沖縄では採れませんが、なぜか沖縄料理には昔からよく使われており、その消費量は全国平均を大きく上回り、かつては全国一でした。」

すると、相手方は北の海で採れる昆布が、なぜ南の沖縄でたくさん食べられているか疑問を

持つだろう。そのときは、歴史の先生のような口調でこう言おう。



「江戸時代、『こんぶロード』というものがああり、昆布は生産地の北海道から当時商業の中心地であった大阪に集められました。ここからさらに各地に伸びていったわけですが、そのひとつに中国ルートがあり、このルートの中継地が琉球王国だったため、沖縄で昆布が食べられるようになったというわけです。」

ここで、「沖縄の伝統的な料理は、当時交易があった中国、日本、朝鮮、東南アジアなどの影響を受け、まさしくこれを『チャンプルー』して生まれたものである。」と付け足そう。

昆布に琉球王国の存在あり、歴史ロマンというスパイスで、『クープイリチー』の味わいがさらに広がることだろう。

後は、なんくるないさ、楽しく食べましょう！

*本コーナーは筆者の経験、伝聞などをまとめたものであり、有効性を保証するものではありません。

パツパツと分かる

リースの話

このコーナーでは、リースに関するホットな話題、お役立ち情報などを出来るだけ簡潔にお伝えします。

第7回

「リース取引の財務メリット」

早来主任 「おはようございます。社長。」

須場社長 「おっ、おはよう。今日は朝早くからどうした？」

早来主任 「はい。実は昨日、銀行で社長をお見かけしたのですが、険しい表情をされていたので声をお掛けすることができなかつたものですから・・・。」

須場社長 「そうか、早速来てくれるとはうれしいねえ。ちょうど定期預金の満期が来たので、更新手続きをしていたんだ。浮かない顔をしていたのは、雀の涙ほどの利息が原因だ。」

早来主任 「そうですか。でも私にはあまり関係ない話ですねえ、なにしろ預金そのものが雀の涙なので（笑）。でも、そのおかげと言ってはなんですが、先月購入した車のローンは金利が低くて助かります。」

須場社長 「そうだな。低金利の時代だから、借入れをする分には利息が少なくて済むよな。ということは、モノを借りるリースの場合も同じ状況なんだろう？」

早来主任 「はい。基本的にはそうですね。」

須場社長 「確かにひと頃比べると、リース料もだいぶ安く

なっているよなあ。ところで、今さら聞くのもんだが、現在のような低金利のときにリースを利用するメリットは何だ？」

早来主任 「はい、金利変動リスクをヘッジできることです。」

須場社長 「でも、この状況はまだまだ続くだろう。景気もなかなか良くならないし、金利が上がることはないと思うが・・・。」

早来主任 「しかし、社長。金利は生きものですから、今後どうなるかは全く分かりません。経済・財政・為替などの要素が複雑にマチぶっているみたいですから。」

須場社長 「おっ、たまにはすごいこと言うな。確かに不景気の下でも金利が上昇する場面がある（注①）と、どこかで聞いたことがあるぞ。」

早来主任 「社長、私が今言ったことは、最近読んだビジネス誌の完全な受け売りです。」

須場社長 「どおりで・・・。ところで先ほど金利変動リスクのヘッジがうんぬんと言ってたけど、簡単に説明してくれ、池上センサー（注②）みたいにな・・・。」

早来主任 「いい質問ですねえ。ではなぜ金利変動リスクがメリットなのか、じっくり探っていきましょう（池上センサー風）。」



アカバナー商事
すば
須場社長



琉球リース
そうき
早来主任

注① 「スタタフレーション」という経済
事象のこと。

注② テレビで、ニュースを分かりやすく
説明することで評判の「池上彰」
氏のいふ。

須場社長 「・・・(うつつ、完全になりきっている)。」

早来主任 「では、借入(注③)の場合、金利情勢の動向いかんで

利息が増えたり減ったりします。もちろん、利息が減ればよいのですが、増えた場合は大変です。その点、リースは期間中支払額が変わらないので、ブレがなく損益の安定化を図ることができるというわけです。但し、全て固定が良いということではなくて、固定と変動のバランスが大切になります。」

須場社長 「センサー、長々とありがとうございます。」

早来主任 「まあーだ、あります。資金に余裕がある場合でも、ぜ

ひリースを活用して頂きたいんです。」

須場社長 「でも、資金に余裕があるのなら、このお金を使わない手はないだろう。」

早来主任 「一義的にはそうですが、設備を手元資金で購入した場合、その分資金が固定化することになり、金額によっては将来資金不足にならないとも限りません。」

須場社長 「確かにいざというときの資金は、安定経営の生命線だからな。」

早来主任 「ちなみに我が家の生命線は、米とビールとポーク缶です。どれも切らしたことはありません。」

須場社長 「・・・でも、必ずしもリースではなく、銀行借入でもいいじゃないか。」

早来主任 「いい意見ですねえー。確かにそのとおりですが、銀行借入は無尽蔵にできるものではありません。いざとい

うときの為に、銀行の借入枠は常に余裕を残しておいたほうが良いと思います。」

須場社長 「そつだ、銀行は頼みの綱だし、それに新たな事業を展開する際のゆとりもほしいからな。」

早来主任 「さすがですねえ、ご理解が早い!。」

須場社長 「もういいよ。池上センサーは終わって、いつもの君に戻ってくれ。」

リースのメリット

◆金利変動リスクを回避できます。

借入(変動型)の場合は通常金利情勢の影響を受けますが、リースの場合は支払額が期間中固定されますので、損益の安定化を図ることができます。

◆少ない資金で設備・機器を導入できます。

購入の場合は一時に多額の資金が必要となりますが、リースの場合は月々のリース料支払いだけで済みますので、経営資金の固定化が避けられ、他の資金需要に振り向けることができます。

◆資金調達の多様化を図れます。

リースによる設備・機器の導入も100%借入した場合と同じ効果が得られるため、資金調達手段の多様化を図ることができます。しかも、金融機関の借入枠をそのまま温存でき、資金調達力に余裕が生まれます。

(弊社パンフレットより)

注③
ここでは、銀行借入で一般的な長期プライムレートに連動する「変動金利型借入」のこと。

※本コーナーは、わかりやすさを第一に誌面を構成しているため、厳密には正確でない記述が含まれている場合があります。ご了承ください。

小国・琉球の外交術

琉球王国は一六〇九年以降、薩摩藩の支配下に置かれたことはよく知られた事実である。これまで支配者の薩摩藩は琉球を「奴隸」のように扱い、近世は暗黒時代だったかのように語られてきた。だがそれはまったくの誤解である。たしかに琉球は薩摩藩の支配のもと、さまざまな政治的制約があったことは事実である。ただし薩摩藩の指令を実行するかどうかの最終判断は琉球王府の手にゆだねられていた。琉球は薩摩に「奴隸」のように従っていたのではなく、自らの国益を守るための外交を展開した。

一七二二年、琉球を揺るがす通達が薩摩藩からもたらされた。琉球国内の農地を全面的に再測量（検地）せよ」との要求がつけつけられたのである。占領直後の一六一〇年、琉球全土で農地測量が実施され、その生産高を基準に薩摩藩に納入する租税額が定められていた。それから一〇〇年あまり、開墾により増加した土地も含めて測量しなおし、実態に即した租税額を算出することがその目的であった。つまり再測量の要求を受け入れれば、多額の税負担が琉球にのしかかる結果となる。

琉球ではこの問題を「国家の浮沈にかかる」として重大視し、王府内でその対応を協議した。支配者薩摩の要求を力づくで拒絶するわけにはいかない。だが琉球は薩摩の言いなりの「奴隸」ではない。議論が続くなかで、琉球最高の政治家といわれる蔡温はこう主張した。琉球は日中の負担に耐えながら小さな国力で体制を保っている。日本にとっても琉球との外交関係を維持することは不可欠となっており、琉球は薩摩のためにかなりの役に立っている。もし琉球が増税することで国力が衰退し、中国と江戸幕府との外交が行えなくなってしまうえば、琉球だけの問題だけではなく、薩摩にとっても面倒な事態になることは間違いない。さらに測量による生産高の変更は江戸幕府の意向なしに薩摩藩の一存では決定できないだ



琉球が交渉へ向かった薩摩藩の鶴丸城跡（鹿児島市）。

ろう、と。

蔡温は、日中両国の関係を維持できなくなるほどの加重負担を薩摩が無理強いすることはできないこと、薩摩藩と幕府との政治的関係をするべく見抜き、結果的に再測量は行えないだろうと分析したのである。

測量の延期を求め、結局、薩摩藩は当初の測量の全面的実施から、従来の生産高をもとに若干の増税をする方式へ変更となった。

琉球側は日本と中国の外交関係を維持するために多額の出費をしていること、自然災害などで農村がダメージを負っていることを前面に押し出して主張し、増税の回避をはかった。そしてそれは薩摩藩も認めざるをえない理由として、一定の譲歩を引き出すことに成功したのである。琉球のしたたかな外交の真骨頂であるといえよう。

当時の琉球は自らの国力を決して過大評価せず、自分たちが

弱いこと、小さい国であることを冷徹に認識していた。ただそれで終わるのではなく、では我々がどうすれば生き残れるのか、そのためにどこから出発して何をしたらいいのかを考えたのである。琉球が現実を見ずに「自分たちはエライ、スゴイ」と自己満足に陥らなかったことが、薩摩支配下で琉球が「奴隸」とならず生き残ることができた一つの理由ではないだろうか。「弱さ」を武器に変える。それが琉球の外交術である。

参考文献・豊見山和行

『琉球王国の外交と王権』

うちなーびけん

「唐の世」から「大和の世」、「アメリカ世」からまた「大和の世」と移り変わった沖縄。そんな歴史の中で生まれ、愛されてきた「オキナワならではのモノ」を紹介するコーナーです。



うちなー菓子パンの人気者 うず巻きパン & ゼブラパン



甘 いものが欲しいとき、小腹が空いたとき、思わず手を伸ばしてしまうものに菓子パンがある。沖縄には、他府県では見られない個性豊かな菓子パンが目白押しだ。今回は、うちなー菓子パンの人気者「うず巻きパン」と「ゼブラパン」にスポットを当ててみたい。

うちなー菓子パンは凄いぞ！

うちなーんちゅは、うちなー菓子パンをごくフツッだと思ってるであろうが、本土のものと大きく異なる。

まず、ビッグな菓子パンが多いことだ。本土ではまず見ないサイズであり、昔から全然変わらないところを見ると、うちなーんちゅにはこのサイズが合っているのだろう。

また、パンにはマーガリンやバタークリームがたっぷり使用され、しかもかなり甘い。今の世の中、ヘルシー志向で、油脂類控えめ、優しい甘さが好まれているが、うちなー菓子パンはそんな風潮をものともせず、うちなーんちゅの味

としてずーっと愛されてきたのだ。

うず巻きパンのあのグルグルは台風？

もし、うちなー菓子パンのリンク付けを行った場合、このパンは間違いなく一、二位を争うだろう。それほど、県内においては超メジャーなパンである。パンがグルグルと巻かれ、そのすき間にはバタークリームがたっぷり、しかもクリームの中にも砂糖がたっぷり、これがあの独特のジャリジャリ感を生み出している。そのうえ、クリームの量が多く、上手く食べないとすぐ手がベトベトになるため、手を汚さないで食べることが出来る人はこの道の達人である。

尚、このパンのうず巻きは台風をヒントに生まれたと言う人がいるが、その真偽は定かではない。



ゼブラパンに立ち向かえるのは若者だけ？

ゼブラパンは黒糖ペーस्टをパンに練りこみ、ピーナツクリームがサンドされたもので、その側面がシマシマの模様に見えることから、ゼブラ（シマウマ）パンと命名されたようだ（名付け親のセンスに脱帽！）。このパンはとにかくサイズがデカく、また味もかなり甘いので、一度に食べ切ることが出来るのは学生などの若者だけではないかと思う。観光客がこのパンを目にしたときには、どんな味がするか興味津々に手に取ることも間違いはない。

うちなー菓子パンのファン急増中？

最近、本土の沖縄物産展やわしたショップなどでは、時々うちなー菓子パンが販売され、人気を博しているようだ。

もちろんモノ珍しさに買う人もいますが、観光で沖縄を訪れたことがある人はこれを見た瞬間、昔の恋人と再会したかのように、このパンを手にかけていることだろう。

わが社の新入社員です。よろしくお願ひします。
今回は、1年先輩の川平君がインタビューしてくれました。



川平 佳史

総務部
時々意味不明な
発言をする仕事人



Q
1

川平 まず、入社前に抱いた琉球リースのイメージはどのようなものでしたか？

比嘉 社員が100人以上いる大きな会社とと思っていましたが、実際はその半分でした。
(小さな会社でごめんね～)

山本 琉球リースビルのイメージしかありませんでした。
(……)

國吉 テレビCMを見て、若い方が多く働いている会社だなあと、でも実際は…。
(何が言いたい)



比嘉 亜沙美

営業企画部
新人の中ではお姉さん役

Q
2

川平 次に、皆さんが働いている職場の様子を聞かせてください。

比嘉 部長のオヤジギャグが理解できず、どういう意味か質問したことがあります。
(おっ、こわ～)

山本 みんな、忙しそうに働いています。
(当たり前だ)

國吉 諸先輩方のキャラが大変おもしろいです。まるで動物園のような騒ぎです。
(そこまで言うか)



山本 世奈

総務部
当社初の平成生まれ社員

Q
3

川平 ところで、皆さんの強みや武器は何でしょうか？

比嘉 英会話ですかね。そこそこはいけると思います。
(カッチョイ～)

山本 若さでは会社一です。たぶん、一年位は。
(そうだね…)

國吉 この青白い顔ですかね。皆さん何かと助けてくれます。
(ととと、海に行け!)



國吉 良直

営業第二部
なんかぼーっとしているが、
今も元気なサッカー少年

Q
4

川平 最後に、がんばったな～という思い出をひとつお願いします。

比嘉 ディズニーのオーディションに合格し、フラダンスチームの一員として踊りました。
(ぜひ忘年会でお願いします)

山本 部活はテニスでしたが、一度も試合に出してもらえませんでした。
(分かるような気がする)

國吉 高校生の時、居酒屋で“焼き鳥”焼きの名人として活躍していました。
(ハチマキ似合いそ～)

お答えします！ リースについて

Q 琉球リースのリース車の数が、県内で走行するタクシー台数より多いと聞きましたが、本当でしょうか？

A 本当です。
平成 22 年 3 月 31 日を基準に比較すると、タクシーより約 1,700 台多く、実に約 1.3 倍の台数規模となります。

県内タクシー台数



(沖縄総合事務局統計資料より)

琉球リースのリース車台数



(割賦販売台数分を除く)

とはいっても、この数字を見て「えっ、そんなにあるの？ でも、リース車が走っているのを全然見かけませんが…」という方が中にはいらっしゃるかもしれません。

大変残念ですが、通常リース車を見分けることはできません。

なぜなら、リース車はナンバープレートも通常の車と変わりがなく、また車体に特別なマークを付けることもないからです。

皆様に実感していただくことはできませんが、今日の県内トップクラスの実績は、県内初のリース会社として、長年オートリースを手掛けてきた「皆様のご支持」そのものと考えています。

企業の経営効率化ニーズがある限り、これからも琉球リースは「ビジネスの足」をバックアップしてまいります。

琉球リースは、新車・中古車、軽自動車から大型車まで、車種・仕様を問わず、企業の自動車導入に“最適”をご提案します。